

ダンス専門部の競技力向上について

ダンス専門部 津坂 美和子（大妻嵐山高等学校）

はじめに

平成12年度より正式に高体連に加盟し13年目に入った。現在登録校は34校、特に現代的なリズムのダンスを主として活動している学校は部員数も年々増えている傾向である。高体連に加盟して以来、5月に『全日本高校大学ダンスフェスティバル～神戸～』の予選会として県大会（埼玉県高等学校ダンスコンクール）、8月に指導者講習会、12月に『新人合同発表会』を実施している。

ダンス必修化に伴い世間のダンスへの興味関心が高くなっている。TV、マスコミ、ネットなどダンスに関することが話題になり生徒たちの興味関心も高まっていると感じる。

また、埼玉国体・埼玉インターハイの開会式演技出演、女子体育連盟研究大会公開演技出演など大きな大会にダンス専門部として携わったことによって埼玉県のダンスレベルが向上していくきっかけとなったと考える。

1 学校総合体育大会埼玉県高等学校ダンス発表会・ダンスコンクール

兼 全日本高校・大学ダンスフェスティバル県予選会 について

目的・趣旨：埼玉県高等学校ダンス部の日ごろの活動の成果をコンクールまたは発表会形式で披露しあうことでダンスの質の向上と健全なる普及発展、そして生徒の豊かな創造性と心身の育成を目的とし、学校の枠を超えた生徒どうしの交流の機会となることを期待して、開催するものである。

内容：「創作コンクール部門」と「参加発表部門」の2部門

（1）創作コンクール部門

①生徒の創作作品とする。②人数は5名以上30名以内の群舞作品とする。③時間は舞台の出入りを含めて、3～4分30秒以内とする。④最優秀賞の学校は埼玉県代表として全日本高校・大学ダンスフェスティバルの高校創作コンクール部門に出場する。

（2）参加発表部門

①創作ダンスに限らず、多様な種類のダンスの上演を行う。②時間は舞台の出入りを含めて、3分以内とする。

今年で発表会は17回目、コンクールは14回目をむかえた。今年の創作コンクール部門は13作品、参加発表部門は30作品と最多数の作品数だった。創作コンクール部門が参加発表部門に比べると少なく、現代的なリズムのダンスを主に取り組んでいる学校にも創作コンクール部門にも出品してほしいと思うところがある。（高体連以外の大会〈他ジャンル〉に参加している学校もある。）

この大会では、プログラムの最後に『エンディング』を発表している。これは各学校代表者2名を選出し、約15分の作品を全学校で力を合わせ制作したものである。内容としては初めに代表者が舞台上で踊り、その後各学校16カウントの紹介ダンスを行い、最後代表者のみが総踊りをするという内容である。（このエンディングは新人合同発表会で制作を開始）

この大会を行うことで目的・趣旨にもあるように披露しあうことでダンスの質の向上が確実にあるように感じる。

2 指導者講習会について

内容：指導経験、実技経験の不足している顧問の指導力向上を目指した内容を優先し、同時に参加している生徒の指導を見学しながら、身体訓練法、作品創作法、部活動運営法、踊り手の意識・照明・ステージ空間の使い方の研修を行う。

この指導者講習会は各学校代表1名（男女あるところは各1名）の参加で8月中旬に講師を招いて1泊2日の合宿形式で行われている。

初めて顔を合わす人もいれば、違うジャンルのダンスを行っている人もいるが、各学校の代表者が集まっているだけあり、意識は大変高く交流を深めながら試行錯誤し、それぞれの良さを出しながら創作作品を仕上げていく。1日目は身体訓練法として踊れるからだづくり・作品づくりの手立ての実技指導を受けた。夜の時間は、部活運営について各学校の紹介や練習方法など、各学校の顧問の先生のアドバイスを受けながら情報交換会をおこなった。2日目は講義として、ダンスコンクールの書類作成、リハーサル、衣装、本番当日（場当たり・客席のマナー）などについておこなった。最後に作品発表会を行い、鑑賞した。

この講習会を通して各学校に各代表者が得たものを持ち帰り多くの部員に繁栄してくれることを願っている。また、ここで交流できたことにより次の新人合同発表会、5月の大会のエンディングにつなげてもらいたい。

日程

		6:30	10:00	12:00	13:00	16:00	18:00	19:00	20:00	22:00	
1	日目	受付	実技① 身体訓練法 (踊れるからだづくり)	昼食	実技② 作品創作法 (作品づくりの手立て)	夕食	風呂	情報交換会 部活運営について	就寝		
2	日目 起床 朝食 等	生徒・顧問：踊り手の意識、 ダンスコンクールについて			朝食	実技④ 作品発表会 好評 まとめ					
		生徒：実技③ 作品創作									



3 埼玉県高等学校ダンス新人合同発表会について

内容：以下の分野の実技講習あるいは作品創作を行い、各成果を発表・観賞する

- ①創作ダンス ②ヒップホップ ③ジャズダンス
- ④ロック ⑤校総合体育大会エンディング創作

この新人合同発表会は12月下旬に各学校各分野に2名程度振り分けてもらい全体で約350人の参加で行っている。講師はダンス専門部の経験のある教員、ダンス部出身の大学生、インストラクターなどに声をかけほぼボランティアで行ってもらっている。

生徒達はこの新人合同発表会はとても楽しみにしている。各学校で普段行っているジャンルではなく違うジャンルに挑戦できる会でもあり、ここで習得したことを次の大会や発表会、自分たちが行っている練習にも取り入れることが出来る。また、他校との交流の場であり、お互いに刺激を受けている。

新人合同発表会ということでもあり、学校総合体育大会エンディングの分野は特に高校2年生を中心に来年度の大会に向けてのスタートになっていると感じる。

4 全日本高校大学ダンスフェスティバル～神戸～について

主催：社団法人 日本女子体育連盟・神戸市・神戸市教育委員会

趣旨：ダンスは、人間の心身を投じての自己開発として、自我意識にめざめ、美的運動欲求の高まる青年期には、とりわけ重要な意義をもつものである。わが国においては、近年急速に各種のダンス体験を求める人々が増加し、ダンス人口の急増、また、各県・地域レベルでの交流にも目覚ましい変化が表れつつある。

しかし、スポーツの対外試合に比較し、高校・大学においては、ダンスの全国レベルの交流は少なく、昭和63年から開催されたダンスフェスティバルは、年ごとに大きな喜びをもって迎えられ成果をあげている。さらにわが国の高校・大学におけるダンス教育の一層の発展を期すとともに、一人ひとりの若い力を燃え立たせる機会となるよう祈念して開催するものである。

内容：(1) 創作コンクール部門：学生・生徒の創作作品とする。

(2) 参加発表部門：創作ダンスの他にも、ダンスの種類を問わず上演できる。

毎年8月上旬に兵庫県神戸市で行われている。今年で26回を迎えダンスの甲子園とも言われている大会である。コンクール部門では、予選・決勝があり予選で約40校が選ばれ、決勝で文部科学大臣賞を含め約10校が選ばれる。

埼玉県では5月にこの大会の県予選会が行われており、その大会の最優秀賞を受賞した学校が埼玉県代表として出場している。この大会は全国大会ではあるがオープン参加で出場できるため、受賞できなかった学校も出場している。今年の埼玉県は埼玉県代表校を含め8校出場している。全体では90校ほど出場している。全体の参加校の中でも埼玉県は出場校もする学校も多く予選通過率も高い。

この大会は高校の部・大学の部とあり、大学生の高いレベルも目の当たりにし大変刺激を受ける生徒も多い。高校卒業後大学進学を考えるきっかけになっている。実際に顧問の中でもこの大会を経験している先生もいる。そして、埼玉県のダンス部出身の生徒も各大学に進学し、新人合同発表会の講師をはじめ、各高校の後輩の為に指導の手伝いをしている卒業生も多い。

近年の埼玉県の受賞校

平成 21 年度	埼玉栄高等学校	日本女子体育連盟理事長賞：生き生きとした生命力あふれる作品に対して
平成 22 年度	栄北高等学校	特別賞：独創的な発想
平成 23 年度	なし	
平成 24 年度	本庄第一高等学校	奨励賞：受賞に該当しなかった作品のうち、総得点が最も高い作品に対して
平成 25 年度	栄北高等学校	特別賞：主題にふさわしい斬新な動きの発見



5 活動の現状（顧問・練習場所など）

埼玉県ではダンス専門部に登録している学校の中で保健体育科の教員は少なく、ダンスを専門も少ない。指導の中には技術指導はもちろん、ダンスの専門性として舞台に関わる照明・衣裳・音響・舞台上のルールなど多くの知識が必要になってくる。外部指導者や卒業生などをお願いして指導している学校も多い。そのため、大会書類などに不備があったり、舞台上のマナーなどの徹底がされていないなどということもある。

各学校の練習場所の現状として、近年新設された部活動が多いことから練習場所が充実していない学校が多い。放課後の教室や廊下、狭いステージ上、部の中での2部練習、他部活の終了時間後の時間を借りるなど大変条件が低い所での活動になっている。教室、廊下、ステージは床の条件が悪く怪我につながる。どうしても音楽をかけ、動きなども派手なイメージがあり、遊びでやっているのではないかというイメージも多いダンスであるが、各学校大きな大会に向けて必死に努力している。一つの作品を作り上げるためには技術向上はもちろん、身体作りの基礎が大切であり、柔軟・筋トレ・持久力が必要とされる。狭い空間での練習では構成や動きの流れを練習することは難しい。

活動を認めてもらうためにも生徒達の礼儀やマナーも指導していく必要があると大いに感じる。

まとめ

近年、ダンス必修化に伴いダンス人口も増えてきている現状である。ダンス必修化になり文部科学省では『ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。』と書かれている。ダンスの授業を見ても指導のしやすさなどから「現代的なリズムのダンス」が先行している様に感じる。

学校総合体育大会埼玉県高等学校ダンス発表会・ダンスコンクールを見ても約 34 校登録している中で創作コンクール部門にエントリーしている学校は約 3 分の 1 である。今後、上記に述べてきたダンス専門部の活動をもっと有意義なものにしていき、創作ダンスの人口を増やし、全国大会の全日本高校大学ダンスフェスティバル～神戸～での入選、入賞を目指して行きたい。

埼玉県インターハイの公開演技

